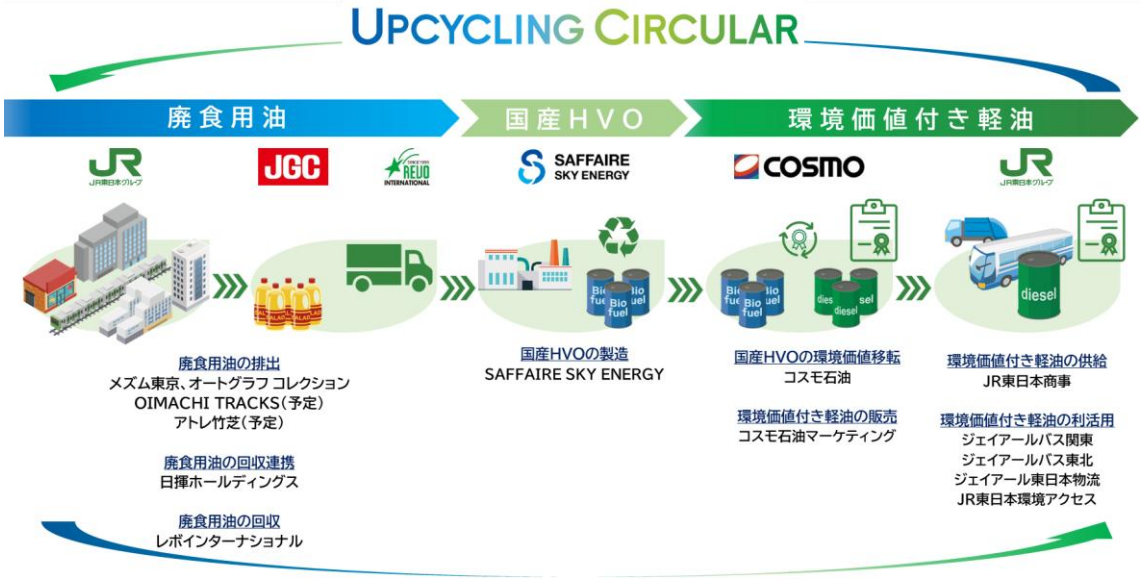
2026 年 11 月 26 日

コスモ石油株式会社
コスモ石油マーケティング株式会社
東日本旅客鉄道株式会社
日揮ホールディングス株式会社
株式会社レボインターナショナル
合同会社 SAFFAIRE SKY ENERGY

国内初、国産 HVO 由来の「環境価値付き軽油」の供給・利活用を開始
～原料となる国内廃食用油の回収を含めた資源循環を実現、脱炭素化に貢献～

コスモ石油株式会社（代表取締役社長：西 克司、以下「コスモ石油」）、コスモ石油マーケティング株式会社（代表取締役社長：髙山 直樹、以下「コスモ石油マーケティング」）、東日本旅客鉄道株式会社（代表取締役社長：喜勢 陽一、以下「JR 東日本」）、日揮ホールディングス株式会社（代表取締役会長兼社長 CEO：佐藤 雅之、以下「日揮 HD」）、株式会社レボインターナショナル（代表取締役 CEO：越川 哲也、以下「レボインターナショナル」）、合同会社 SAFFAIRE SKY ENERGY（代表者：髙田 岳志、以下「SAFFAIRE SKY ENERGY」）の 6 社は、国内廃食用油（以下「廃食用油」）※1 を原料として、国内初の国産 SAF※2 大規模製造装置で国産次世代型バイオディーゼル燃料（以下「国産 HVO」）※3 を製造するとともに、製造した国産 HVO に由来する環境価値を付加した軽油（以下「環境価値付き軽油」）※4 の供給および利活用を国内で初めて開始します。



図は AI により作成

【本取り組みのイメージ図】

1. 本取り組みの概要

本取り組みでは、JR 東日本と日揮 HD との連携により、JR 東日本グループの商業施設・ホテルなどから排出される廃食用油をレボインターナショナルが回収します。

SAFFAIRE SKY ENERGY は、回収された廃食用油を原料として SAF 製造装置において国産 HVO を製造し、コスモ石油およびコスモ石油マーケティングが ISCC PLUS 認証※5に基づくマスバランス方式※6により既存軽油にその環境価値を 100%割り当てることで、環境価値付き軽油を生み出します。

環境価値付き軽油は、JR 東日本の資源循環事業コンセプト『UPCYCLING CIRCULAR』※7の実現に向けて、JR 東日本グループの旅客事業用バスや物流・清掃事業用業務車両などで利活用することにより、「資源循環」と「脱炭素化」を同時に実現します。

■環境価値付き軽油の利活用概要（2026 年 11 月 26 日時点）

（1）期　間　　：2026 年 12 月～（予定）

（2）燃　料　　：環境価値付き軽油

（3）CO_2 削減効果：約 83%（LCA 上※8、対軽油）

（4）廃食用油の排出元：

①株式会社アトレ

OIMACHI TRACKS（東京都品川区）またはアトレ竹芝（東京都港区）など（予定）

②日本ホテル株式会社

メズム東京、オートグラフ コレクション（東京都港区）

（5）国産 HVO の製造拠点：

・SAFFAIRE SKY ENERGY 堺工場（コスモ石油堺製油所構内：大阪府堺市）

（6）環境価値付き軽油の利活用先／利活用方法：

①ジェイアールバス関東株式会社　（本社：東京都墨田区）／ バスなど

②ジェイアールバス東北株式会社　（本社：宮城県仙台市）／ バスなど

③株式会社ジェイアール東日本物流（本社：東京都墨田区）／ 業務用車両など

④株式会社 JR 東日本環境アクセス（本社：東京都台東区）／ 業務用車両など



国産 SAF 製造装置
（コスモ石油堺製油所構内）



原料となる廃食用油の受入施設
（コスモ石油堺製油所構内）

２．各社の役割

関係者		役割
コスモ石油(株)		国産 HVO 由来の環境価値付き軽油の供給 （マスバランス方式）
コスモ石油マーケティング(株)		ISCC PLUS 認証に基づく環境価値の管理、国産 HVO 由来の環境価値付き軽油の販売
JR東日本グループ	東日本旅客鉄道(株)	『UPCYCLING CIRCULAR』の推進
	(株)アトレ	廃食用油の提供
	日本ホテル(株)	
	(株)JR 東日本商事	環境価値付き軽油の販売(JR 東日本グループ向け)
	ジェイアールバス関東(株)	環境価値付き軽油の利活用
	ジェイアールバス東北(株)	
	(株)ジェイアール東日本物流	
	(株)JR 東日本環境アクセス	
日揮ホールディングス(株)		JR 東日本との廃食用油の回収連携
(株)レボインターナショナル		JR 東日本グループからの廃食用油の回収
(合)SAFFAIRE SKY ENERGY		国産 SAF および国産 HVO の製造

３．本取り組みの特長・意義

（１）廃食用油を活用した資源循環

JR 東日本グループの商業施設・ホテルなどから排出された廃食用油を原料として、SAF 製造装置を通じて製造された国産 HVO の環境価値を既存軽油に割り当てのうえ、JR 東日本グループで利活用することで、国内初の資源循環を実現します。

本取り組みは、JR 東日本グループのグループ経営ビジョン「勇翔 2034」で掲げる「持続可能で豊かな地球環境」の実現に向けて、サーキュラーエコノミー（循環型経済）を推進する『UPCYCLING CIRCULAR』の実現に向けた取り組みの一環です。

（２）既存車両・供給網を活用した脱炭素化

HVO 由来の環境価値をマスバランス方式により既存軽油に割り当てることで、既存の燃料を変えることなく、脱炭素化に貢献します。

本取り組みを通じて、バイオディーゼル燃料の課題であった車両や燃料供給網をそのまま活用できるため、脱炭素化が難しい公道走行車両の脱炭素化に大きく貢献します。

（３）クリーン燃料証書制度の実証

本取り組みは、資源エネルギー庁が主導する「クリーン燃料証書制度」の実証事業※9における検証対象の一つとして実施します。実証事業を通じて、クリーン燃料にあたる国産 HVO の環境価値を証書化し、その移転・利用状況を適切に管理する仕組みの有効性を検証します。

＜参考＞

■SAFFAIRE SKY ENERGY について

コスモ石油、日揮 HD、レボインターナショナルは、2020 年から国内における廃食用油の収集から国産 SAF の製造・輸送・供給に至るまでのサプライチェーン構築に向けて事業化検討を進め、2022 年に SAFFAIRE SKY ENERGY を設立しました。

廃食用油を原料に国産 SAF・国産 HVO を製造する国内唯一のプラントとして、2024 年 12 月にコスモ石油堺製油所（大阪府堺市）構内において SAF 製造装置の建設を完了し、2025 年 4 月から国産 SAF の供給を開始しています。

なお、本事業は 2021 年に NEDO（国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構）の「国産廃食用油を原料とする SAF 製造サプライチェーンモデルの構築」助成事業として採択され取り組んできたものです。

（関連リリース）NEDO「国産 SAF 大規模生産設備によるサプライチェーンの実証を開始しました」
https://www.nedo.go.jp/news/press/AA5_101818.html

■各社コメント

●コスモエネルギーグループ

「Vision 2035」および第 8 次連結中期経営計画のもと、石油と次世代エネルギーの取り組みを一体で推進し、エネルギーの安定供給と脱炭素化の両立を目指しています。

本取り組みは、SAF 製造装置で製造される国産 HVO 由来の環境価値を活用することで国内資源の多面的な活用を推進し、次世代エネルギーの用途および需要を拡大するものです。今後もエネルギーの安定供給に資する国産バイオ燃料の普及と幅広い産業の脱炭素化に貢献していきます。

●JR 東日本グループ

資源循環事業コンセプト『UPCYCLING CIRCULAR』のもと、グループの事業活動から生じる廃棄物を新技術や外部連携を通じながら再資源化し、グループ内で利活用することで、持続可能なサーキュラーエコノミーのさらなる推進を図っています。

本取り組みなどを通じて、グループ経営ビジョン「勇翔 2034」において掲げた「持続可能で豊かな地球環境」の実現に向けて『UPCYCLING CIRCULAR』を推進するとともに、JR 東日本グループ「ゼロカーボン・チャレンジ 2050」に挑戦していきます。

●日揮 HD

国産 SAF および国産 HVO の原料となる廃食用油の回収促進とサプライチェーン拡大に取り組んでいます。本取り組みは、事業活動から発生する廃食用油を回収し、環境価値付き軽油として再び活用することで、国内資源循環の実現に貢献するものです。また、当社は自治体や企業と連携し、一般家庭から排出される廃食用油の回収や普及啓発活動にも取り組んでいます。今後も資源循環への参加の輪を広げるとともに、脱炭素社会の実現に向

けた機運醸成を通じて、国産 SAF および国産 HVO の普及拡大に貢献してまいります。

●レボインターナショナル

本取り組みでは、JR 東日本グループの商業施設・ホテルから排出される廃食用油の回収を担います。今後も廃食用油の回収を通じて国産 SAF および国産 HVO のサプライチェーンを支え、国内資源の循環利用とバイオディーゼル燃料の普及、脱炭素化に貢献してまいります。

●SAFFAIRE SKY ENERGY

2025 年 4 月から廃食用油を原料とする国産 SAF および国産 HVO などの製造を開始しました。本取り組みでは、コスモエネルギーグループを通じて国産 HVO 由来の環境価値を国内に初めて提供します。今後も本取り組みなどを通じて、廃食用油の国内循環とバイオディーゼル燃料の安定供給に貢献します。

※1 国内の家庭、飲食店、商業施設などから排出される植物由来の使用済み食用油。
※2 Sustainable Aviation Fuel（持続可能な航空燃料）：化石資源ではなく、廃食用油や植物などを原料とする航空燃料。
※3 Hydrotreated Vegetable Oil（水素化植物油）：廃食用油などバイオマスを原料とし、石油由来の軽油と同じ炭化水素構造を持つ燃料。
※4 環境価値付き軽油：国産 HVO 由来の環境価値を割り当てた既存軽油。
※5 ISCC（International Sustainability and Carbon Certification）が展開する、持続可能で追跡可能なサプライチェーンを実現し、担保する持続可能な製品の国際的な認証制度。
https://iscc-system.org/certification/certification-schemes/iscc-plus/
※6 サステナブル原材料（バイオマス・再生由来などの原材料）と化石由来の原材料が混合された場合に、その投入量比率に応じて製品の一部または全部にサステナブル原材料の量を割り当てる手法のことで、化学工業分野の複雑なサプライチェーンにおける持続可能性を保証するための有効な手法。
※7 JR 東日本「JR 東日本グループが目指すサーキュラーエコノミーについて」
https://www.jreast.co.jp/press/2024/20240704_ho03.pdf
JR 東日本「JR 東日本グループにおける「バイオディーゼル燃料」の利活用について」
https://www.jreast.co.jp/press/2025/20260318_ho01.pdf
※8 LCA（Life Cycle Assessment）：原料回収から廃棄・リサイクルに至るまでのライフサイクル全体を通しての環境負荷を定量的に算定する手法。
※9 「クリーン燃料証書制度」の実証事業
資源エネルギー庁「クリーン燃料証書の検討状況及び今後の方向性について」
https://www.meti.go.jp/shingikai/enecho/shigen_nenryo/nenryo_seisaku/pdf/021_07_00.pdf

以上